

2018年度のL Pガス需要ついに1,300万トンを割り込む

日本L Pガス協会がこのほどとりまとめた「2018年度L Pガス需給統計（5日集計）」によると、2018年度のL Pガス需要は前年比1.7%減の1,296万トンとなった。2015年度に1,400万トンを割り込んでから3年で1,300万トンを下回る形となった。ピーク1997年度の1,970万トンから11年で674万トンの大幅減少となった。

1. **＜需要＞** 2018年度の総需要は、プロパンが前年比1.8%減の10,345千トン、ブタンが同1.2%減の2,614千トン、合計で同1.7%減の12,959千トンと1,300万トンを割り込んだ。上期・下期別にみると、上期はプロパン2.3%増、ブタン0.2%増、合計1.8%と堅調だったが、下期はプロパン4.8%減、ブタン2.5%減、合計4.3%減と大幅な落ち込みとなった。下期落ち込みの最大の要因は暖冬。平年気温を各地で1.5～1.8℃も上回る高気温が続いた。18年度のL Pガス総世帯数が2,433万世帯で前年比9万世帯の減少となったことも多少の影響はあるが、上期は増需となっており、やはり需要期の温暖化が響いた。ちなみに、18年度都市ガス世帯は2,576万世帯で前年比26万世帯の増加。オール電化世帯は713世帯で同30万世帯の増加。

輸入船による直納需要は、鉄鋼用が22千トンで神戸製鋼が7月にブタンを22千トン受け入れたにとどまる。化学原料用は主として昭和電工がブタンを272千トン受け入れた。電力用は東京電力がプロパンを120千トン、ブタンを25千トン受け入れた。直納需要は合計で439千トンで前年比10.9%増だった。

2. **＜国内生産＞** 製油所分L Pガス生産量は前年比10.1%減の1,891千トン。上期が同13.0%減の1,005千トン、下期が同6.5%減の886千トン。年間通じてのガソリン需要の低迷と下期の灯油需要の大幅減少で原油処理量も減少した。ガソリンも灯油も価格が高かったこと、災害をもたらした悪天候及び暖冬が影響した。製油所分生産は昨年までは年間200万トンを大きく超えていた。

石油化学分生産量は前年比7.9%減の386千トン。18年度のエチレン生産量は6,185千トンで前年比4.2%減となった。

3. **＜輸入＞** 18年度の輸入量は前年比1.1%増の10,639千トンと増加した。需要は低迷しているが、上記国産L Pガスの供給量が減少しているため、輸入量はこの4年間横ばいが続いている。プロパンが同0.1%の微増で8,937千トン、ブタンが6.6%増の1,702千トン。サウジやカタールなど中東産の輸入が減少し、今や米国からの輸入が7割前後を占めている。